

教科(科目)	家庭科(家庭基礎)	単位数	2 単位	学年(コース)	2 学年
使用教科書	実教出版『新図説家庭基礎』				
副教材等	実教出版『生活学 Navi 資料＋成分表＋ICT 2026』				

1 グラデュエーション・ポリシーおよびカリキュラム・ポリシー

グラデュエーション・ポリシー	① 多様な考えを尊重し、協働的な取組をととして最適解を求める資質・能力を育成します。 ② 礼節を重んじ、感謝の気持ちを持って社会に貢献しようとする資質・能力を育成します。 ③ 知的好奇心と創造力に富み、生涯にわたり主体的に学び続ける資質・能力を育成します。
カリキュラム・ポリシー	① 全日制普通科の高等学校として、生徒一人ひとりの多様な進路に対応するために、知・徳・体のバランスのとれた総合的な力をつける教育活動を展開します。 ② 協働的な学びを進めるために、ICT を効果的に活用したグループ学習や課題探究活動、プレゼンテーション活動などを、「総合的な探究の時間」を始めとした各教科の学習に取り入れます。 ③ 地元の行政機関や大学、企業等と連携して、地域を知り、地域に貢献し、さらに全国的、世界的な視野をもてるような活動を教科等横断的に行います。 ④ 生徒の主体的な活動を支援し、多様な人や考え方と接する機会をつくるために、生徒会活動や学校行事等を充実させます。

2 学習目標

- ・家族や生活の営みを人の一生とのかかわりの中でとらえ、家族や家庭生活のありかた、子どもと高齢者の生活と福祉、生活の自立のための衣食住や消費生活・環境などの基礎的な知識・技術を身につける。
- ・生活課題を主体的に解決し、生活の充実向上をはかる力と実践的な態度を身につける。

3 指導の重点

- ・生活のしくみと現実を、家庭内に止まることなく、地域や社会、歴史的な変化を含めた総合的なとらえ方ができるようにする。
- ・生活の身近な課題から、問題意識を持って学習に取り組む態度を養う。
- ・実践的な学習を、実際の生活の場で生かせるようにする。

4 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
人間の生涯にわたる発達と生活の営みを総合的に捉え、家族・家庭の意義、家族・家庭と社会との関わりについて理解を深め、生活を主体的に営むために必要な家族・家庭、衣食住、消費や環境などについて理解しているとともに、それらにかかわる技能を身につけている。	生涯を見通して、家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身につけている。	さまざまな人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活を創造し、実践しようとしている。

5 評価方法

	評価は次の観点から行います。		
評価方法	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	以上の観点を踏まえ、 ・授業のワークシート ・定期考査や小テスト ・提出作品 ・実技テスト ・レポート課題 などの内容を確認、分析し、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・授業ワークシート ・振り返りシート ・ホームプロジェクトの発表 ・定期考査や小テスト ・グループワークの観察 ・レポート課題 などを確認、分析し、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・グループワークへの観察 ・授業のワークシート ・提出作品 ・振り返りシート ・ホームプロジェクト ・レポート課題 などを確認、分析し、評価します。
	内容のまとめりとともに、各観点を 「A：十分満足できる」、「B：おおむね満足できる」、「C：努力を要する」で評価します。 内容のまとめりとともに評価基準は授業で説明します。		

6 学習計画

月	単元	学習内容	評価方法	時間
4	第1章自分らしい生き方と家族 1 生涯発達する人生 2 これからの人生をデザインする 3 青年期を生きる 4 生活を支える労働 5 生活時間から見えてくるもの	・PDCA サイクルにのっとり生活設計について考える ・青年期の生き方について自立の観点から学習する ・生活を支える労働について学ぶ ・これからの家庭生活や社会のあり方について、どのような改善が必要か考え、話し合う ・世帯構成の変化について学習し、現代の家族の課題と支援について、事例をもとに考える	・授業ワークシートの内容確認、分析 ・レポート課題の内容確認、分析 ・グループワークへの取り組みの観察	5
5	6 男女共同参画社会をめざして 7 現代の家族 8 家族・家庭を取り巻く社会環境の変化や課題 9 家族に関する法律の理念と変化 10 家族にかかわる法律			8
6	第2章子どもとかかわる 1 子どもの誕生 2 からだの発達 3 運動機能の発達と知的発達 4 かかわりのなかの発達 5 子どもの生活習慣と健康 6 子どもの食生活・衣生活 7 子どもと遊び 8 親になることを考えよう 9 すこやかに育つ環境と支援 10 子どもを守る法律・制度	・子どもの身体の成長について、大まかな流れと特徴を学ぶ ・発達の順序や、子どもの世界観について学ぶ ・子どもを生み育てる意義と人間形成の過程について考える ・仕事と子育てが両立できる環境について考える ・子どもの福祉に関する活動と社会的問題について考える	・授業ワークシートの内容確認、分析 ・レポート課題の内容確認、分析 ・定期考査の分析	7
7 8	ホームプロジェクトと学校家庭クラブ 第3章 高齢者とかかわる 1 高齢社会に生きる 2 高齢者を知る 3 高齢者のサポートと介護の心持 4 高齢社会を支えるしくみ	・学校家庭クラブの活動とホームプロジェクトの意義を理解し、夏期休業中に課題を見つけて取り組む ・高齢者とかかわることの意義、高齢社会の現状と課題について学習する ・身近な地域で行っている高齢者サポートサービスについて調べる ・介護保険制度について学習する	・レポート課題の内容確認、分析 ・課題の発表の取り組みと内容の確認、分析 ・授業ワークシートの内容確認、分析	2 8
9	第4章 社会とかかわる 1 共に生きるために 2 社会保険制度 3 社会の一員としての私たちの役割	・社会保障制度とその目的について学ぶ ・ボランティア活動の必要性や意欲について、話し合いを通じて考える	・授業ワークシートの内容確認、分析 ・グループワークへの取り組みの観察	7
10	第5章 食生活をつくる 1 私たちの食生活と健康 2 栄養素 3 炭水化物 4 脂質 5 たんぱく質 6 ミネラル 7 ビタミン 8 その他の食品 9 食品の選択と表示 10 食品の衛生 11 食料自給率と食のグローバル化 12 食の未来と環境への取り組み 13 食事摂取基準 14 食品群別摂取量のめやす 15 献立作成 16 調理の基本	・食えることと健康のかかわり、現代の食生活の変化と問題点について学習する ・栄養素の働きと、多く含む食品について学ぶ ・食品の旬や選択する際のポイント、食品の品質表示について学ぶ ・食中毒の種類を学び、衛生的な管理に結びつける。また、食品添加物の使用の目的や安全性についても学ぶ ・食品群別摂取量のめやす、食事バランスガイドを見ながら、何をどれだけ食べればよいのか考える ・調理の一連の流れを実践し、その理論やコツを学習する	・授業ワークシートの内容確認、分析 ・実習レポートの内容確認、分析 ・調理実習への取り組みの観察	7

11	第7章 人と住まいのかかわり 1 人と住まいのかかわり 2 平面計画からみた住空間 3 ライフステージと住まいの計画 4 健康に配慮した住まい 5 安全な住まい 6 持続可能な住まい 7 これからの住まい	・住まいの維持と管理の方法について学習する ・さまざまな住まい方やまちづくりの現状について学習する	・授業ワークシートの内容確認、分析 ・レポート課題の内容確認、分析 ・定期考査の分析	7
12	第8章 経済的に自立する 1 日々の収入・支出を把握する 2 社会と家計の変化 3 長期的な経済計画を立てる 4 経済のなかの家計	・現代の家計の特徴について学習する ・多様化している支払い方法や多重債務の予防と対処について学習する	・授業ワークシートの内容確認、分析	6
1	第9章 消費行動を考える 1 契約と主体的な消費行動 2 多様化する販売方法と問題商法 3 消費者を守る制度・法律 4 多様化する支払い方法 5 消費者の権利と責任 6 持続可能な社会の構築 7 持続可能な社会をめざす取り組み	・近年の消費者問題を学び、問題解決のための消費者運動や消費関連の法律を学習する ・持続可能な社会に向けて、自らの行動や選択を見つめなおす	・授業ワークシートの内容確認、分析 ・レポート課題の内容確認、分析	6
2	第6章 衣生活をつくる 1 人と衣服のかかわり 2 健康で安全な衣服 3 衣服素材の種類と特徴 4 衣服素材の性能と改善 5 衣生活の計画と購入 6 衣服の管理 7 家庭での洗濯・保管 8 持続可能な衣生活をつくる	・衣類素材の性能や加工・改善について学習する ・洗濯の種類と方法、洗剤のはたらき、家庭での洗濯方法・保管の方法などについて学ぶ。 ・衣生活と資源・環境とのかかわり、また、環境に配慮した衣生活について学習する ・被服製作実習	・実技テストの内容確認、分析 ・製作品の確認、分析 ・製作実習への取り組みの観察	6
3	生活設計	1年間の家庭基礎学習のまとめとして自分らしい生き方を設計する	・レポート課題の確認、分析	1

計 70 時間（50 分）

7 課題・提出物等

授業ワークシート、レポート課題、実習記録、ホームプロジェクト、定期テスト、小テスト 実技テスト、作品（被服小物）

8 担当者からの一言

- ・家庭基礎では上記内容を体験的に習得するために、実習・実験を多く行うので実習態度（服装等）や提出物等を含めて総合的に評価を行います。
- ・ホームプロジェクトは写真を貼付したレポートを提出してもらいます。

担当者（ 矢代 恭子 ）